

富士宮市の災害記録

No.	発生年月日	災害の種類	災害の内容
1	宝永2年6月12日 (西暦1705年)	水害	豪雨により白鳥山南斜面が大きく崩落し、境川がせき止められた。その後決壊し、塩出部落の民家を押し流して35人の死者をだした。
2	宝永4年10月4日 (西暦1707年)	地震	宝永の東海地震（三連動） 富士山が噴火して宝永山ができた。（大地震） また、白鳥山の東斜面が崩落し、富士川をせき止めた。その後の決壊等により上長貫で23人、内房橋上で8人の死者をだした。
3	文政11年6月 (西暦1828年)	水害	大洪水により神田川埋没。
4	嘉永4年6月 (西暦1851年)	風水害	大暴風雨により多数の家屋が流失し、農作物がほとんど全滅した。
5	安政元年11月4日 (西暦1854年)	地震	安政の東海地震 精進川村で被害が大きく、家屋の全壊170戸、半壊106戸を数え、5人の死者をだした。 大宮町、富丘村でも家屋等に被害があった。 芝川地区でも、白鳥山の東斜面が崩落して富士川がせき止められ、万沢付近まで浸水した。富士川も東に移動し、周辺で600人の死者をだしたと言われている。
6	明治6年10月 (西暦1873年)	風害	大風により上野大石寺と妙蓮寺の大木75本が倒木。
7	明治8年5月・初冬 (西暦1875年)	火災	初音町（現中央町西端）から出火して神田（現大宮町）に移り、仲宿（現中央町）・連雀（現東町）を焼き、三枚橋（現東町）で鎮火した。 同年初冬には立宿（現宝町）から出火し、寺地（現西町）と田宿（現西町）を焼き、西新町（現宮町）の大半が焼失した。
8	明治17年2月 (西暦1884)	風水害	大暴風雨により岳麓一帯が大災害を受ける。
9	明治40年7月13日～14日 (西暦1907年)	風水害	大暴風雨により芝川・飢渴川・神田川・潤井川が氾濫し、富士郡で死者19人をだした。 道路や橋の破損が多く、復旧工事に11,935円余を要した。
10	明治41年7月15日～16日 (西暦1908年)	風水害	富士郡下の河川が氾濫し、堤防の決壊、橋や家屋の流失が多く、死者11人、床上浸水639戸の被害がでた。
11	大正9年1月 (西暦1920年)	火災	初音町から出火し、神田・仲宿・南神田（現大宮町）・緑町（現中央町）を焼失。

12	大正12年9月1日 (西暦1923年)	大地震	関東大震災 富士郡下で死者2人、負傷者9人、家屋の全壊17戸、半壊89戸の被害があったが、富士宮市では死傷者はなかった。
13	昭和7年4月21日 (西暦1932年)	火災	大宮町大火
14	昭和7年6月3日～4日 (西暦1932年)	風水害	詳細不明
15	昭和7年11月 (西暦1932年)	風水害	詳細不明
16	昭和9年9月20日～21日 (西暦1934年)	風水害	室戸台風により橋梁流失、樹木の倒壊など被害甚大。
17	昭和9年11月2日 (西暦1934年)	水害	各地の河川、2メートル内外増水。
18	昭和10年9月24日～25日 (西暦1935年)	水害	豪雨(300ミリ以上)により各地で河川が増水し、水害発生。
19	昭和13年6月28日～ 7月5日 (西暦1937年)	水害	台風の影響で8日間にわたり豪雨が続き、水害が起こる。最高雨量605ミリ。
20	昭和15年3月28日 (西暦1939年)	火災	北山村角木沢の林野1,000ヘクタールが延焼。市内は、3月14日以降雨らしい雨もなく乾燥していた。
21	昭和16年5月4日 (西暦1940年)	水害	豪雨と富士山大沢の雪どけが重なり、大沢川から土砂が流出して災害発生。潤井川の河床が1.8メートル上昇し、下流域の田畑大被害。
22	昭和20年10月8日～10日 (西暦1945年)	水害	阿久根台風により各地で河川が増水し、潤井川の堤防決壊が130メートルに及ぶ。雨量480ミリ。
23	昭和24年10月27～28日 (西暦1949年)	風水害	富士郡下では、住宅の全半壊14戸、倒木54本など富士宮市を中心に風水害被害が多く、身延線、市内の送電線はすべて不通となった。上井では大河原の氾濫で70戸が浸水、田畑1ヘクタール流失、30ヘクタールが冠水した。
24	昭和27年6月23～24日 (西暦1952年)	風水害	ダイナ台風により各地で河川の氾濫が続き、橋の流失13箇所、水路の欠壊や道路の流失30箇所、家屋の浸水千数百戸、田畑の被害1,000町歩に及び、星山地区に山崩れがあった。内房地区の水田が大被害を受け、11人の死者をだした。
25	昭和29年9月25～26日 (西暦1954年)	風水害	洞爺丸台風により電線・ケーブル等が浸水し、一部地域で通信が途絶したほか、家屋・道路等にも被害があった。
26	昭和29年11月28日 (西暦1954年)	風害	低気圧により1,500戸の屋根瓦が飛散、家屋の被害多大。

27	昭和30年8月30～31日 (西暦1955年)	水害	寒冷前線が急速に発達して大雨になり、家屋150戸が浸水した。
28	昭和34年8月12～14日 (西暦1959年)	風水害	台風7号により瞬間最大風速42メートルを記録し、死者1人、負傷者12人、家屋の全壊53戸、半壊及び破損は1,700戸に及んだ。
29	昭和34年9月26日 (西暦1959年)	風水害	伊勢湾台風により、家屋全壊5戸、半壊23戸、床下浸水2戸の被害があった。
30	昭和36年6月23～29日 (西暦1961年)	水害	36・6豪雨により、山岳地方では500～700ミリの雨量があり、精進川・芝川が決壊、上野地区・上井出地区に多大の被害があった。
31	昭和37年8月26日 (西暦1962年)	風水害	台風により、床上浸水30戸、床下浸水31戸の被害があったほか、ケーブル浸水により電話線63回線が不通になった。
32	昭和38年7月2日 (西暦1963年)	水害	床下浸水100戸。
33	昭和39年9月25日 (西暦1964年)	風水害	台風20号により、北山地区で家屋崩壊その他の被害があった。
34	昭和41年9月25日 (西暦1966年)	風水害	瞬間最大風速50メートルを記録した台風26号の影響により、重軽傷者41人、住家全壊66戸、半壊256戸、非住家全壊285戸、半壊257戸の被害があった。一部破損は住家非住家を合わせると2,000戸にも達し、特に市街地の被害が大きかった。 芝川地区では、住家全壊9戸、半壊34戸、一部損壊200戸を数え、特に稗久保地先での被害が大きかった。
35	昭和44年8月4～5日 (西暦1969年)	水害	台風7号により、市の西部北部に降雨量が多く、市内の各地で河川が増水し、床上浸水10戸、床下浸水99戸の被害があった。 また、道路、農作物の被害が甚大であった。
36	昭和47年4月～6月 (西暦1972年)	水害	富士山大沢源頭部の融雪による雪崩と降雨が相まって、4月には約20万立法メートルの土石流が潤井川に流出し、大石寺付近、青木喜楽橋上流に堆積した。5月にはそれを超える量の土石流が潤井川沿線を荒らし、土砂の堆積は大中里反田橋下流にまで達した。さらに6月には、これまで潤井川に堆積していた土砂が田子の浦港にまで流入し、沿線住民に大きな不安を与えた。
37	昭和47年7月11～12日 (西暦1972年)	水害	活発化した梅雨前線により、上井出地区で400～500ミリの雨量があり、潤井川その他の河川が氾濫した。堤防の決壊17箇所、橋梁流失11箇所、田畑の冠水流出8.56ヘクタール、床上床下浸水363戸の被害があった。
38	昭和49年7月7～8日 (西暦1974年)	水害	台風8号(七夕台風)の集中豪雨により、時間雨量35ミリ、1日雨量500ミリを記録する。床下浸水13戸、道路欠損等34箇所、護岸決壊等28箇所、その他農作物に甚大な被害をもたらした。

39	昭和49年8月24～26日 (西暦1974年)	水害	台風14号により、富士山岳地方に最高時間雨量60ミリ、総雨量814ミリという驚異的な雨量を記録。床下浸水5戸、がけ崩れ2箇所、道路欠損3箇所、田畑の冠水2ヘクタールの被害があった。
40	昭和51年9月10日 (西暦1976年)	水害	台風17号の大雨により、河川決壊が井之頭地区で2箇所、麓地区で3箇所発生し、雌橋付近で300ミリの水道本管が破損した。また、用水路の決壊により、芝川町柚野と安居山で田畑が5ヘクタール冠水した。 白糸では、水稻11.5ヘクタール、畑20ヘクタールの被害があった。
41	昭和54年10月18～19日 (西暦1979年)	風水害	台風20号の大雨により、特に北部山麓地帯では1時間に88ミリ、市街地でも50ミリの降雨を記録した。この大雨により、潤井川、芝川をはじめ中小河川が一斉に氾濫し、護岸・橋梁・道路等の決壊が相次いだ。河川・水路・排水施設等はすべての機能を失い、道路・田畑・宅地等を押し流して各所に大きな被害をもたらしたほか、安居山でも土砂崩れが発生し、身延線が不通になった。 また、旧芝川町役場護岸が流失し、大和橋、芝富橋なども甚大な被害を受けた。
42	昭和57年7月31日～ 8月3日 (西暦1982年)	風水害	台風10号により、7月31日夜半から影響が出始め、台風の接近に伴い8月1日から2日の早朝にかけて強い雨が降り続いた。台風通過後一時天気は回復したが、8月2日夜から3日にかけて低気圧の影響により再び大雨が続き、総降水量は白糸で522ミリを記録した。大中里アポロ生コン付近床下浸水、芝川一部決壊、上野水之ロバス停西側のヤシヤブ上水道建物流出等の被害があった。
43	昭和57年11月30日 (西暦1982年)	水害	未明に発達した低気圧が市内を通過して大雨になり、最高時間雨量が、北部山麓地帯で54ミリ、市街地で38.5ミリを記録した。床上浸水3戸、床下浸水32戸、道路河川等の欠損55箇所の被害があった。
44	平成10年10月～ 平成11年1月 (西暦1998年)	湧水災害	富士山に平年の数倍の雨が降ったことにより、富丘地区を中心に市街地のいたるところで異常湧水が発生した。畑、人家、道路等に被害があり、全国的にも珍しいケースとしてマスコミにも大きく取り上げられた。 「富丘地区異常湧水対策本部」が設置された。
45	平成15年6月21日 (西暦2003年)	その他 (硫酸ピッチ)	大中里にある貸倉庫内で、不法投棄されていた「硫酸ピッチ」約4,000リットルが流出し、周辺の40世帯が避難する事態となった。当時、硫酸ピッチの不法投棄は全国で深刻な問題となっており、新聞等に大きく取り上げられた。 対策本部を設置し24時間の監視体制をとった。
46	平成21年8月11日 (西暦2009年)	地震	駿河湾沖地震 午前5時7分に、駿河湾沖を震源とするM6.5の地震が発生し、富士宮市の震度は5強だった。瓦、壁タイルの落下等建物被害が16戸あり、人的被害は1人(左足小指骨折)だった。 専門家は、東海地震との関連性はないとみている。

47	平成23年3月11日 (西暦2011年)	大地震	東北地方太平洋沖地震（東日本大震災） 午後2時46分に、東北地方の太平洋沖を震源とするM9.0の地震が発生し、富士宮市の震度は4だった。 市内には大きな被害はなかったが、各所で停電が発生した。また、東北地方からの電力供給が困難になったことから、長期にわたり計画停電を実施することとなった。
48	平成23年3月15日 (西暦2011年)	地震	静岡県東部地震 午後10時31分に、静岡県東部（内陸部）を震源とするM6.4の地震が発生し、富士宮市の震度は6強だった。 夜間ではあったが直ちに職員が参集し、午後10時40分に災害対策本部を設置した。同時に避難所を開設し、384人の避難者を受け入れた。死者はいなかったが、33人が軽傷を負い、大規模半壊1戸を含む1,000戸以上の建物に被害があった。 (最終的には1,119件のり災証明書を発行した。) また、他の自治体からの応援職員、ボランティアによる瓦礫撤去作業を3月末まで実施した。
49	平成23年9月19日～ 9月21日 (西暦2011年)	水害	台風15号による大雨（白糸地区で総雨量421ミリ）により、河川の増水による道路被害が各所で発生したほか、国道469号線の「桜峠」にて土砂崩れが発生し、上稲子地区が一時孤立した。
50	平成23年9月～ 平成24年3月 (西暦2011年)	湧水災害	潤井川東岸の富丘地区を中心に異常湧水が発生した。例年を大きく上回る雨量が地下に蓄積されていたことが原因と思われる。9月16日に「富士宮市異常湧水警戒本部」を設置し、職員が、観測、土のう積み、排水等の作業に当たったほか、家庭用汲み上げポンプの貸し出しも行った。 湧水のピークは10月15日、基準観測井戸で119.77メートルの水位があったが、平成24年2月にはほぼ終息し、平成24年3月30日をもって警戒本部を解散した。
51	平成25年10月15日～ 16日 (西暦2013年)	風水害	台風26号の大雨により、死者1人、負傷者1人、倒木約30本、停電家屋約2,900戸（東電管内）の被害があった。
52	平成26年2月8日 (西暦2014年)	大雪	大雪警報が発表され、山間部のみならず市街地でも大雪となったが、甚大な被害には至らなかった。 ※罹災証明発行件数：約30件
53	平成26年2月14日～15日 (西暦2014年)	大雪	大雪警報の発表はなかったが、同年2月8日以上の降雪となり、山間部では約1メートルの積雪を記録した。 人的被害は、死者1人、重傷者2人、軽傷者数人であり、経済的損失も約7億8600万円に上る甚大な被害をもたらした。（※個人被害は除く）その他にも、停電（約500戸）や断水（約100戸）等の被害が発生したが、避難者はいなかった。 ※罹災証明発行件数：約120件

54	平成26年10月5日～6日 (西暦2014年)	風水害	台風18号の大雨により、床下浸水4戸、雨漏り15戸、路肩崩壊4箇所、通行止め11箇所、土砂流出12箇所、落橋2箇所、水道管破損2箇所、冠水5箇所、土砂崩れ5箇所等の被害が発生したが、人的被害はなかった。 土砂災害警戒区域を有する44区に避難勧告を発令した。
55	平成26年10月13日～ 14日 (西暦2014年)	風水害	台風19号の大雨により、建物被害1戸、倒木2本の被害が発生したほか、内房地区と栗倉地区で土砂が流出した。 災害警戒本部を設置し、土砂災害警戒区域を有する44区と、台風18号の影響により土砂災害の恐れがある上羽鮎区に避難勧告を発令した。